

ワンルーム型子育て支援施設の実験前の使われ方

—子育て支援施設におけるコーナー配置の空間実験 その1—

子育て支援コーナー 親子 使われ方 ワンルーム

正会員 〇伊藤 優里*
 準会員 岡崎 紗矢**
 正会員 山本 幸子***
 正会員 中園 真人****

1. 序論

2007年に開始された「地域子育て支援拠点事業」により、主に3歳未満児とその親と一緒に集う子育て支援施設が設置され、保育所や公共施設・空き民家等を活用して様々な空間構成や規模で実施されている。そして、3歳未満児が過ごす空間として一般的である保育所では、「コーナー保育」という考えのもと、ままごとや絵本などの場所を設定し、子どもが自由に選んで遊ぶことのできるよう配慮しており、子育て支援施設においてもコーナー設定を行う傾向が見られる。しかし、子どもはコーナー設定の意図とは異なる遊びを行う場合があるため、遊びの観察によりコーナー同士を関連付けることや、コーナーの場所を見直すことが重要である。

そこで本研究では、山口市のワンルーム型子育て支援施設に調査協力を依頼し、現状のコーナー配置における課題点を整理し、それに基づいて2パターンのコーナー配置を設定して空間実験を行い、施設に適したコーナー配置の検討を行う。本論では、まず実験前のコーナー配置の特徴を把握し、乳幼児の遊び方及び親の過ごし方から空間の課題点を明らかにする。

2. 調査概要

調査は、山口市にある「子育て交流広場ちゃ☆ちゃ☆ちゃ（以下ちゃ☆ちゃ☆ちゃ）」において使われ方調査を実施した。利用者（親子）及びスタッフを対象とし、終日10分間隔で平面図に滞在場所・動線・行為内容の記録及びデジタルカメラ・ビデオカメラによる撮影を行った。調査期間は2014年9月2,3,5日の3日間である。

3. 施設概要

3-1 施設の立地状況と空間の特徴

調査対象地を図1に示す。「ちゃ☆ちゃ☆ちゃ」は、周囲にアパートや福祉施設が立ち並ぶ、市の中心市街地に位置した山口市児童文化センターの2階に設置されている。駐車場は建物の西側にある広いグラウンドを利用しているため、車での来所も可能となっている。

施設は旧図書室部分を改修して利用し、全面フローリングであるが一部に畳マットを敷いて空間を2分割している。コーナー配置を図2に示すが、遊びコーナーとし

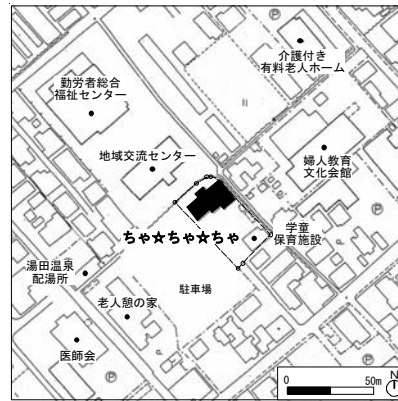


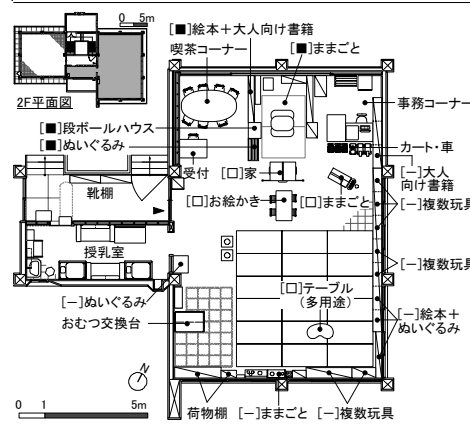
図1 敷地周辺図



写真1 施設外観



写真2 駐車場



凡例)コーナー...■:囲み型(4),□:島型(3) 準コーナー...:直線型(3)
 注)遊び場以外のコーナー、欄等については「[-]」を付けず示している。

図2 コーナー配置



写真3 畳スペース



写真4 フローリングスペース

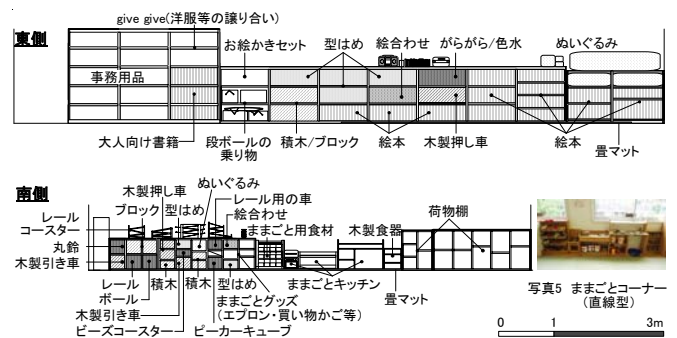


図3 玩具詳細図



写真5 ままごとコーナー (直線型)

The Usage before the Start of Experiment of Studio-Type Childcare Support Facility
 Space Experiment of Corner Placement in Childcare Support Facility (Part 1)

ITO Yuri, OKAZAKI Saya, YAMAMOTO Sachiko, NAKAZONO Mahito

てフローリングスペースには、囲み型のままごとコーナーの他、島型の家やお絵かきコーナーが設置されている。またフローリングスペースは、カートや乗り物の遊び場としても位置づけられている。そして、畳スペースには絵本やぬいぐるみ、ままごとコーナーが設置されている。明確にコーナーが区分されているものは、囲み型：4、島型：3、直線型：3の計10コーナーである。建物東側と南側の棚については、複数種類の玩具がコーナー分類されずに配置されている(図3)。

遊びコーナー以外では、事務コーナー、おむつ交換台の他、親のための喫茶コーナーが設置されている。また、プレイルームに隣接する空間に授乳室があり、洗面所が設置されているため手洗いの際にも利用されている。トイレは施設内には無く、センター1階のトイレを兼用で利用している。

3-2 施設の運営形態

施設の一日の基本的な流れを図4に示す。開館日時は火～土曜日の10:00～16:00で、利用料は無料である。スタッフは、午前・午後に1名ずつと終日1名が勤務している。通常は、遊びのプログラムは決められておらず、利用者が自由に過ごす場となっており、施設内にあるおもちゃでの遊びに加え、スタッフや他の利用者との交流が行われている。また月に数回、0歳児や1歳児の親の交流会や妊婦を対象とした交流会等を開催し、プレイルーム内の畳スペースが利用されている。

自由遊び以外では、昼食と喫茶の時間が設けられている。昼食は各自で弁当を持参してもらい、昼食前(11:20頃)におもちゃの片づけを行った後、1時間程度とられている。また、12:15前から母親の喫茶タイムが設けられており、喫茶コーナーに設置されたコーヒー等を希望者が各自で作って飲まれている。

4. 施設の利用形態

4-1 利用者の滞在パターン

調査期間中のスタッフ及び利用者数を表1に示す。利用者は1日に平均27組が来所し、親・子合わせて60名が利用している。また兄弟での利用もみられたため、親の人数よりも子どもの人数の方が多く、平均32名が来所している。

次に、利用者の滞在パターンを表2に示す。滞在パターンは、①午前中滞在、②午後滞在、③昼食前から午後にかけて滞在、④短時間滞在の4つに区分された。昼食を施設でとらないタイプ1・2の利用者は全体の8割を占め、平均して1時間程度滞在していた。また、昼食を施設でとるタイプ3の利用者は、3～5時間と長時間滞在していた。

4-2 子どもの年齢別人数推移

本節からは、3日間の調査期間のうち利用者数の多かつ

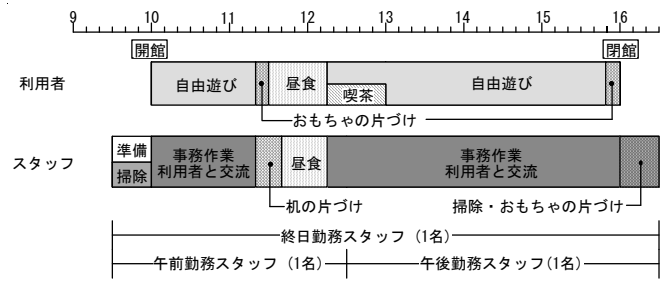


図4 1日の基本的な流れ

表1 調査期間中のスタッフ・利用者数

調査日	①利用者				利用者数 合計	②スタッフ			①② 合計 人数
	組数	親子 親	子ども	その他		午前	午後	終日	
9月2日(火)	34	34	41	1	76	1	1	1	79
9月3日(水)	26	26	30	0	56	1	1	1	59
9月5日(金)	23	23	26	0	49	1	1	1	52
平均	27.7	27.7	32.3		60.0	1	1	1	63

表2 利用者の滞在パターン

Type	滞在パターン			調査日			平均
	午前	昼食	午後	9月2日	9月3日	9月5日	
1				1:03(12)	1:04(15)	1:02(7)	1:03(11.3)
2				1:21(13)	1:07(4)	1:21(12)	1:16(9.7)
3				3:19(9)	3:43(6)	5:15(2)	4:06(5.7)
4				0	0:23(1)	0:17(2)	0:20(1.5)

注) 図中の時間は、各パターンの平均時間、()内の数字は利用者の組数を示す。

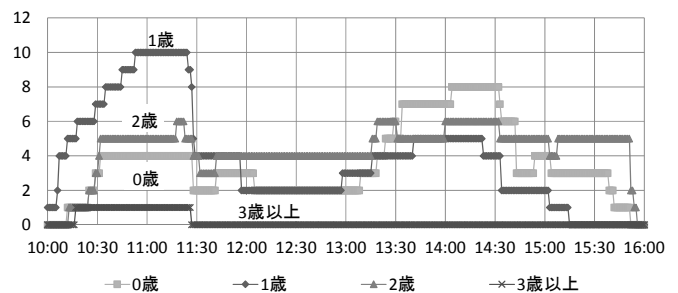


図5 子どもの年齢別人数推移 (9月2日)

た9月2日に着目して分析を行う。子どもの年齢別人数推移を図5に示すが、午前中に1歳児が最大10名と他の年齢の子どもに比べて2倍以上多いことがわかる。一方、0歳児は13:30～14:30にかけての滞在が多くみられる。また、2歳児は1日を通して5名前後が滞在し、3歳以上の子どもはほとんど見られない。

5. 施設の利用方法

図5を基に、0～3歳の各年齢の子どもが滞在していた午前中の自由遊びを中心に利用方法の分析を行う。

5-1 来館・受付

来館・受付の様子を図6に示す。利用者は来所すると、



図6 受付

入口横に設置されているテーブルで利用者名簿に記入をして受付を行う。その後、南側に設けられた荷物置き場へと移動して荷物を置く。受付の場と荷物置き場が離れているため、複数の利用者が一度に来所すると、荷物を持ったまま受付の順番を待つ光景がよくみられる。

5-2 自由遊び

自由遊びの様子を図7に示す。ここでは、主に10:00～11:00の遊びについて分析する。

1) 10:00～10:10(利用者:1組)

畳スペースに設置されたままごとコーナーで親子が一緒に過ごす。その間スタッフは、事務コーナーに加え、喫茶コーナーも利用して事務作業を行う。

2) 10:10～10:20(利用者:4組)

初めて施設を訪れた利用者が1組いたため、フローリングスペースに設置されたお絵かき用のテーブルを利用して、スタッフが施設利用に関する説明を行う。その後、他の利用者に対してスタッフから紹介をすることで、利用者同士の交流を促す。

3) 10:20～10:30(利用者:8組)

利用者3組が、事務コーナー前に設置されたままごとコーナーを利用し、棚との間に滞在する様子がみられた。また、畳スペースでは8組が滞在しており、ソラマメテーブルも利用して遊びが行われていた。

4) 10:30～10:40(利用者:12組)

フローリングスペースと畳スペースの計3ヶ所のままごとコーナーでの遊びがみられた。囲み型のままごとコーナーでは、コーナー内に設置されたテーブルに座って遊ぶ様子がみられた。

5) 10:40～10:50(利用者:17組)

カートを押す遊びがみられ、フローリングスペースだけでなく、畳スペースや荷物置き場にも遊びが拡大していた。利用者の大半は畳スペースで子どもと一緒に滞在していた。

6) 10:50～11:00(利用者:16組)

フローリングスペース中央の家とお絵かきコーナーで

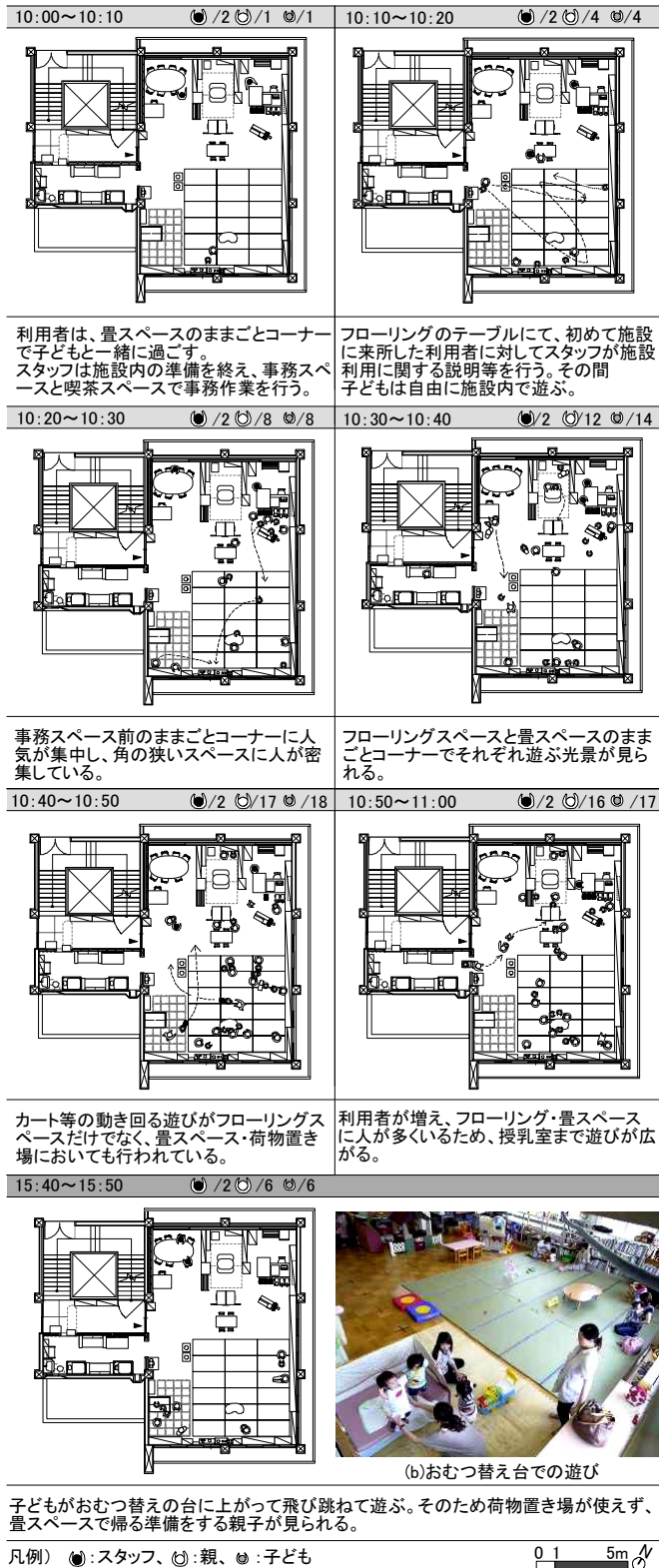


図7 自由遊び

の滞在により、フローリングスペースが分断される形となっている。そのため、カート遊びを行う十分なスペースが確保できず、授乳室までカートを押して入って遊ぶ光景もみられた。

7) 15:40～15:50(利用者:6組)

おもむつ交換台が畳スペースの横に設置されているため、

遊び場として利用されることが多く、台の上に子どもが上がって飛び跳ねる等の遊びがみられた。また、荷物置き場とも隣接しているため、利用者が荷物棚の前で帰る支度ができず、畳スペースに荷物を持って移動して準備を行う様子もみられ、おむつ交換台と荷物棚の位置の変更が必要と考えられる。

5-3 昼食

昼食の様子を図 8 に示す。11:20 から、一時的なおもちゃの片づけが行われる。授乳室奥にある洗面台で手を洗い、台拭きでテーブルの上を拭く。基本的には常設してあるテーブルを利用し、グループに分かれ各自が持参した弁当で昼食がとられる。人数が多い場合は、授乳室から丸テーブルを運び出して利用する。子どもは親の横に座り昼食をとることが多く、自分で座ることのできない子どもは、親の膝の上に座るかベビーソファを利用する。またスタッフは、喫茶スペースにおいて昼食をとる。

5-4 喫茶

喫茶の様子を図 9 に示す。親のみの喫茶タイムが設けられており、12:15~13:00 の間、喫茶スペースにおいて自由に喫茶を楽しむことができる。喫茶スペースには、コーヒーや紅茶等の粉末とポットが用意されており、利用者は持参したコップ、または紙コップ代を支払い喫茶が行われる。喫茶の際には、プレイルームで遊ぶ子どもの様子を各自が確認することが多いが、喫茶を行っている利用者が順番に子どもを見守る場面もみられる。

6. 結論

本論で得られた知見は以下の通りである。

- 1) 室内は全面フローリングで、一部に畳マットを敷いて空間を 2 分割しており、遊びコーナーは囲み型：4、島型：3、直線型：3 の計 10 コーナーに区分されている。畳スペース周辺の壁際の棚には、複数種類の玩具がコーナー分類されずに配置されている。
- 2) 実際の使われ方では、来所した利用者は受付を行い、荷物置き場へと移動する。受付と荷物置き場が離れているため、複数の利用者が一度に来所すると、荷物を持ったまま受付の順番を待つ光景がよくみられる。
- 3) フローリング中央に家とお絵かきコーナーが配置されているため、乗り物遊びの場所が十分に確保されており、授乳室や畳スペースにも遊びが拡大している。また、荷物置き場とおむつ交換台が畳スペースの横に配置されているため、遊びの場の延長として使われている。一方で、絵本コーナーは他の玩具と同じ場所に



図 8 昼食



- 配置されているため、静かに読み聞かせを行うことができずほとんど利用されていない。
- 4) 昼食は、基本的には常設してあるソラマメテーブルやお絵かき用のテーブルを利用し、グループに分かれてとられる。利用者が多い場合は、授乳室から折り畳み式の丸テーブルを運び出して利用する。
- 5) 喫茶スペースでは、昼食後決められた時間内で親のみの喫茶タイムが設けられている。喫茶の際には、プレイルームで遊ぶ子どもの様子を各自が確認することが多いが、座る場所によっては遊ぶ子どもを確認しづらい場合がある。

* 山口大学大学院理工学研究科
DC2・日本学術振興会特別研究員
** 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生
*** 筑波大学システム情報系 助教・博士(工学)
**** 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

* DC2., JSPS Research Fellow., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.
** Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.
*** Assistant Prof., Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba., Dr.Eng.
**** Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr.Eng.